



令和6年度の沖縄こどもの貧困緊急対策事業の実施状況※について

内閣府においては、沖縄のこどもを取り巻く厳しい状況を踏まえて、平成28年度から沖縄こどもの貧困緊急対策事業に取り組んでおり、このたび、本事業の令和6年度分の実施状況を以下のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

※令和7年3月1時点、カッコ内は令和6年3月調査

1. こどもの貧困対策支援員について

本事業においては、こどもの貧困に関する地域の現状を把握し、学校やNPO法人等の関係機関との情報共有や、こどもの就学援助やこどもの居場所などの支援につなげるための調整等を行う「こどもの貧困対策支援員」（以下「支援員」という。）の配置を支援しています。

① 支援員数（人）

支援員数	資格を有する支援員数※ ¹	実務経験のある支援員数※ ²
	108（114）	95（97）

※¹ 教育関係（教員免許）、医療関係（医師、看護師など）、保健衛生関係（保健師、臨床心理士など）社会福祉主事・社会福祉士、児童福祉関係（保育士、児童厚生員など）等の資格を有する支援員。

※² 教育関係、児童福祉関係、老人福祉・介護・障害者福祉関係、医療関係、保健衛生関係、行政関係などの実務経験のある支援員。

② 支援を受けた人数・世帯数

● 人数（人）

人数	こども	若年妊産婦	保護者※
	9,838（8,195）	7,347（6,127）	121（137）

※ 支援を受けたこどもの祖父母、兄弟を含む。

● 世帯数

4,432世帯（3,687世帯）

③ 実施自治体数

31 市町村（31 市町村）

④ 支援員の配置先（人）

市町村役場 （福祉部門）	教育委員会・ 学校	その他 （居場所、社会福祉協議会）
62（65）	42（44）	4（5）

⑤ 支援開始時のこどもの在籍状況

	未就学 児童	小学校	中学校	高校	大学 専修学校	在籍して いない	不明	合計
人数（人）	660	2,937	2,040	349	21	159	1,181	7,347
割合（％）	9.0	40.0	27.8	4.7	0.3	2.2	16.0	100.0

⑥ 支援開始時の生活保護・就学援助※の受給の有無

	両方受給	生活保護 のみ受給	就学援助 のみ受給	受給なし	不明	合計
世帯数 （世帯）	452	261	2,075	1,131	513	4,432
割合（％）	10.2	5.9	46.8	25.5	11.6	100.0

※ 経済的理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して、市町村が学用品費、学校給食費等を援助し、義務教育の円滑な実施を図る制度。

⑦ 支援したこどもやその保護者等をつないだ場所※¹

	居場所	市町村 役場	学校・ 教育 委員会	ハロー ワーク	児童 相談所	社会福祉 協議会等	民生 委員	医療 機関	弁護士	その他 （フードバンク 等）※ ³
人数（人）	2,167	1,609	1,481	80	151	463	309	259	17	2,504
割合（％）※ ²	22.0	16.4	15.1	0.8	1.5	4.7	3.1	2.6	0.2	25.5
世帯数（世帯）	1,192	840	965	68	62	223	99	158	5	1,293
割合（％）※ ²	26.9	19.0	21.8	1.5	1.4	5.0	2.2	3.6	0.1	29.2

※¹ 複数の場所につないだ場合、それぞれ計上している。

※² 支援を受けた人数（9,838人）及び支援を受けた世帯数（4,432世帯）に対する割合

※³ フードバンク、放課後デイサービス、パーソナルサポートセンター、無料塾など。

2. こどもの居場所について

本事業においては、地域の実情に応じて、食事の提供、生活指導、学習支援等を受けながら、日中や夜間にこどもが安心して過ごすことのできる「こどもの居場所」（以下「居場所」という。）の運営を支援しています。

① 居場所の数（箇所）※¹

居場所数	従来型の居場所数		
	従来型の居場所数	拠点型の居場所数※ ²	若年妊産婦の居場所数
227 (209)	195 (182)	25 (20)	7 (7)

※¹ 開設場所は、民間施設、児童館、公民館、学校など。

※² 一般的な居場所では対応が困難なこども（不登校、ひきこもり、発達障害、非行のこども等）及びその保護者に対し、ソーシャルワーク等の専門的支援を行う居場所である。

② 利用者数（人）※

利用者数
502,876 (449,352)

※ 利用者数は延べ人数である。

※ 本事業による居場所の利用者以外の者（単に居場所が含まれる施設を利用した者）も含まれる場合がある。

③ 実施自治体

沖縄県、32市町村（沖縄県、30市町村）

④ 実施内容（箇所）※

食事支援	生活指導	学習支援	オンライン支援	キャリア形成支援等	ソーシャルワーク	送迎	若年妊産婦の支援
222 (189)	183 (182)	174 (167)	32 (36)	109 (98)	57 (56)	78 (76)	7 (7)

※ 同一の居場所で複数の支援を行っている場合は、それぞれに計上している。

⑤ 開所日数（箇所）※

～年50日	年51日～100日	年101日～150日	年151日～200日	年201日～
61 (64)	24 (25)	25 (20)	23 (15)	93 (85)

⑥ 開所時間帯（箇所）※

午前（～12時）	午後（12時～19時）	夜間（19時～）
105（95）	218（199）	80（58）

※ 複数の時間帯で開所している場合、それぞれに計上している。

【本件連絡先】

内閣府沖縄振興局総務課事業振興室

成田、藤野、石垣、松尾

電 話：03-6257-1661

市町村等別の沖縄こどもの貧困緊急対策事業の実施状況(注1)

市町村等	支援員の配置				こどもの居場所の運営支援									
	配置 人	配置先			箇所	実施内容(注3)								
		市町村役場 (福祉部門)	教育委員会 学校	その他 (注2)		食事支援	生活指導	学習支援	オンライン 支援	キャリア形成 支援等	ソーシャル ワーク	送迎	若年妊産婦 への支援	
那覇市	26 (26)	8 (8)	18 (18)	0 (0)	36 (39)	35 (36)	30 (32)	27 (29)	6 (8)	21 (22)	15 (14)	8 (7)	1 (1)	
宜野湾市	3 (6)	3 (6)	0 (0)	0 (0)	18 (11)	16 (10)	18 (11)	14 (10)	1 (2)	7 (4)	3 (4)	7 (4)	- (-)	
石垣市	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (5)	8 (5)	8 (4)	8 (4)	0 (1)	3 (3)	3 (3)	4 (2)	1 (1)	
浦添市	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	7 (9)	7 (9)	7 (9)	5 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	- (-)	
名護市	4 (5)	4 (5)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	5 (5)	4 (4)	5 (5)	1 (1)	3 (4)	1 (0)	1 (2)	- (-)	
糸満市	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (6)	9 (6)	5 (6)	6 (5)	1 (2)	4 (4)	3 (3)	3 (4)	- (-)	
沖縄市	13 (15)	5 (6)	8 (9)	0 (0)	40 (40)	40 (34)	26 (36)	11 (27)	4 (4)	6 (5)	6 (6)	7 (9)	1 (1)	
豊見城市	3 (4)	3 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (6)	7 (6)	7 (6)	6 (5)	4 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	- (-)	
うるま市	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (14)	15 (14)	15 (14)	15 (14)	3 (3)	8 (7)	5 (5)	8 (7)	1 (1)	
宮古島市	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	8 (8)	8 (8)	7 (7)	4 (4)	6 (6)	4 (4)	7 (7)	1 (1)	
南城市	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	4 (3)	- (-)	
国頭村	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	- (-)	
大宜味村	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	- (-)	
東村	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	- (-)	
今帰仁村	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
本部町	2 (2)	2 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	0 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	
恩納村	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
宜野座村	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	- (-)	
金武町	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	- (-)	
伊江村	2 (1)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
読谷村	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	2 (3)	1 (1)	1 (2)	- (-)	
嘉手納町	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	- (-)	
北谷町	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
北中城村	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	- (-)	
中城村	3 (4)	2 (2)	1 (2)	0 (0)	2 (3)	2 (3)	2 (3)	2 (3)	1 (1)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	- (-)	
西原町	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (12)	14 (11)	14 (12)	14 (11)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (2)	- (-)	
与那原町	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (1)	1 (3)	3 (3)	- (-)	
南風原町	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	
粟国村	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	- (-)	
南大東村	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (2)	2 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	- (-)	
北大東村	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	- (-)	
伊平屋村	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	- (-)	
伊是名村	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	- (-)	
久米島町	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	- (-)	
八重瀬町	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	1 (2)	3 (3)	- (-)	
竹富町	2 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (4)	5 (0)	5 (4)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	- (-)	
沖縄県	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	19 (16)	19 (13)	3 (3)	19 (13)	3 (2)	19 (13)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	
合計	108 (114)	62 (65)	42 (44)	4 (5)	227 (209)	222 (189)	183 (182)	174 (167)	32 (36)	109 (98)	57 (56)	78 (76)	7 (7)	

注1: 令和7年3月1日時点、カッコ内は令和6年3月調査

注2: 支援員の配置先の「その他」は、居場所、社会福祉協議会等である。

注3: 複数の活動を実施する居場所がある。

居場所の運営支援の例①

(別紙2)

◎・・・より手厚い支援を実施する拠点型こどもの居場所
☆・・・若年妊産婦のための支援を行う居場所

学習支援ひろば 「くじら寺子屋」(沖縄市)



居場所の様子

小学生以上の学習支援や困窮者を対象とした食料支援、対象者の状況に応じた相談支援等を実施。オープン型で広く受け入れ、個々の困り感に寄り添っている。

☆若年妊産婦居場所 cocomamaru(うるま市)



料理教室の様子

若年妊産婦は、妊娠・出産による学業の中断等により、家庭・社会から孤立しやすい状況にある。妊娠・出産への支援、育児や生活の自立に向けた支援を進めながら、継続就労などのキャリア形成意欲を高める。

◎やらびば(宮古島市)



学習支援の様子

困窮世帯や養育環境に課題のある世帯、不登校等の子どもに対し、生活指導や軽食提供、キャリア教育など個々のニーズに沿った支援で安心できる居場所を提供し、自己肯定感を高め将来の自立を支援する。

大里コミュニティ広場 (南城市)



学習支援の様子

貧困世帯や将来的に貧困に陥る可能性が高い子どもに対し、居場所において学習や食事、生活への支援を行うことで安心して過ごすことができる環境を提供し、子どもたちが自ら考え、行動できるように支援を行っている。

居場所の運営支援の例②

◎子ども自然図書館 (本部町)



野外活動の様子（ものづくり体験）

豊かな自然環境を活かし多様な体験を提供することで、自立心を醸成し、生活困窮の連鎖の解消を支援する。また、こども図書館を設置することで、自己学習の場として支援する。

島袋児童館（北中城村）



食事支援の様子

家庭において十分な食事や学習等が困難なこどもたちに食事と居場所を提供する。また、地域の見守り活動と連携し、長期休暇期間中の生活指導等も実施している。

放課後ふれあいキッズ (伊是名村)



野外活動の様子（農作物の収穫体験）

保護者が就労等の間にこどもを預かり、学習支援や生活指導等を実施する。また、長期休暇期間中においても利用できるように運営している。

やまね子育て支援センター (竹富町)



居場所の様子（食事・学習等）

未就学児の親子の集いの場・小中学生の放課後の居場所として、生活指導・学習支援等を実施している。また、多世代交流も取り入れている。

事業実施の例

事例① 育児・出産に関する手厚い支援

ポイント：生活困窮の若年妊産婦について、出産・育児支援、就労支援等を行った結果、子育て環境の改善や就労につながった。

支援前の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・19歳の若年妊婦、夫は口調が強くDV気質あり。 ・妊娠中は悪阻がひどく入退院を繰り返し、夫の収入のみで生計を立てていた。 ・クレジットの支払いが滞っていたことや、夫が仕事で家を空ける中、一人で子育てをすることに不安を抱えていた。 	
対応	居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・出産準備物の寄付を行い、安心して子育てができるよう支援した。(弁当支援も実施) ・子と母が孤立しないよう居場所で継続的に見守りを行った。 ・自立に向けた就労支援や保育園見学に同行した。
	保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・子の預かりを行った。(保護者の就労に繋がった)
	支援員	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルク支援や月一のフード提供による定期的な見守りを行い、産後のメンタル不調に寄り添った。その他、必要な手続きに関するフォロー等を行った。(居場所と連携)
支援結果	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業を通じて助産制度の利用に繋がり、経済的な負担の軽減になった。 ・居場所の利用により産後鬱に陥っていた本人も次第に回復し、本来のポジティブな姿が見られるようになり、夫との関係も子を通じて穏やかになった。 ・居場所卒業後も、しばらくはフードの提供などで近況の把握をし、相談支援を続けたことで、本人自身が周囲に自己発信できるようになった。また保育園の利用により仕事に就くことができ、金銭面での不安も徐々に解消され、以前よりも安定した生活ができるようになった。 	

事例② 母子家庭への支援

ポイント：社会的に孤立した母子家庭に対し、学習支援や行政手続支援等を行った結果、こどもの進学や家庭環境の改善につながった。

支援前の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成：母・長女（高校生）・次女（中学生：不登校）・三女（中学生：不登校） ・母親は精神疾患あり（保護世帯の状況）。長女は大学進学を希望していたが、塾などには通えずアルバイトをしながら独学で受験勉強をしていた。また、次女・三女ともに小学校から不登校で学習の遅れがあり、次女は高校進学に向けた支援、三女には引きこもり状態の解消に係る支援が必要な状況にあった。 	
対応	居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・長女と次女には週2回の学習支援を行った。三女についても居場所の利用が見られた。
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・SSWや学校の教育相談等を通じて課題の解消に努めた。
	支援員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や対象児童に必要な情報提供等を行った。
支援結果	<ul style="list-style-type: none"> ・長女は大学に合格し、次女も学習の遅れを取り戻し高校に合格できた。 ・三女についても少しずつではあるが、外出ができるようになった。 ・母の精神面の課題は残るが、こども達が自立に向けて第一歩を踏み出したのは大きな成果となった。 	

事例③ 支援員等が関係機関と連携し各種制度へつなぐ支援

ポイント：生活に困窮する世帯に対し、居場所や支援員等が連携して支援を行った結果、こどもの成育環境の改善や各種社会的支援制度の受給等に繋がった。

支援前の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母親、本児（小1）の2人世帯。（未婚で出産） ・ 小学校入学のタイミングで県外から転入。母親の実家にて生活。 ・ 母親は日中働いた経験がなく、母子手当とキャッシングで生活していた。 ・ 本児はこれまで家庭保育で生活。集団生活の経験がなく成長段階において未経験な部分が多く、他者との関わり方に課題がみられた。また生活面では、食事、排泄等が自立しておらず、口腔環境も虫歯等でひどい状態だった。 ・ 母親に怒鳴られて毎日のように泣いている様子もあり、心配した祖母が役所へ相談。 ・ 小学校入学後、特別支援クラスの案内を受けたことを契機に母親と支援員が繋がった。 	
対応	居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本児が安心して過ごせる雰囲気を作り、おやつ等の食事支援を実施した。 ・ 本児と一緒に来館した祖母から母子の様子を聞き取り、関係機関と情報共有した。
	放課後等デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本児の排泄面のケアも行い、本児の頑張りを母親へ伝える等、成長を見守った。 ・ 家庭の状況は行政と共有し、気になることがあればすぐに連絡できるようにした。
	家庭児童相談室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 虫歯の治療に向けて、民間支援団体へ繋いだ。 ・ 支援員や学校（SSW）と適宜情報共有を行い、状況の把握に努めた。
	相談支援事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本児の計画相談を担当し、本児に合った事業所に繋いだ。 ・ サービス担当者会議で、放課後等デイサービス事業所、学校との共通理解を行った。
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排泄の失敗時は、周囲に配慮しながら保健室でシャワーと着替えを手伝った。
	訪問看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母子の定期通院時の受診同行と服薬管理を行った。
	SSW	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後等デイサービス利用に向けて医療機関との調整を行い受診に繋げた。定期通院が必要となった後も一時的に支援員と交代で受診同行を行った。校内において排泄面の配慮等を学校と調整。学校での様子を保護者へ伝え、保護者の相談役に努めた。 ・ 母親の心療内科の必要性が生じた際も、本児と同じ医療機関へ繋いだ。
支援員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭以外で過ごせる場所として交流型居場所へ繋げた。 ・ 母親と面談をしていく中で、本児の発達面で困り感を抱えていることや祖母との関係で悩んでいることが分かった。母親が安心して相談できるようこまめに連絡を取り、食糧提供を通して訪問回数を増やした。本児の療育支援と母親の育児負担を軽減するため、放課後等デイサービスを案内。制度利用に向けて面談や申請等が重なったため、母親が混乱しないよう同行のサポートを行った。無事に放課後等デイサービスの利用、特別児童扶養手当を受給することができた。 ・ 母親は車の運転免許を所持しておらず、交通手段も課題であった。母子の受診同行支援では、対応可能な訪問看護へ繋いだ。 	
支援結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祖母と母親に確執があることが分かり、両者の支援を分けて対応したことで、母親が「どうしたいのか」を知ることができた。居場所、放課後等デイサービスに繋がったことで放課後の過ごし方が充実。本児の環境を整えることができた。 ・ 各種サービスの利用に向けて多くの関係機関に繋いだことで、支援員が一人で抱え込むことなく支援することができた。母親の就労等の課題は残っているため、今後も他機関と連携しながら必要な支援を継続していく。 	